

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700319		
法人名	空知パブリックメンテナンス株式会社		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293番地1 (電話) 0126-45-4110		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月26日	評価確定日	平成21年9月30日

【情報提供票より】 (平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	13.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	15,000~19,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (8月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	8 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 67 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩見沢市立栗沢病院、町立長沼病院、栗山赤十字病院、三嶋歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の老人福祉に対する熱い思いから開設した当事業所は、広い敷地と緑あふれる環境の中に立地しており、利用者はゆっくりとした日々を送っている。地域との交流を大切にしながら、安心の中で生き生きと暮らすことを支援するという事業所の理念を具現化するよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である同業者との交流を通じたケアの向上については、グループホーム協議会へ要望したり、外部研修での積極的な交流などで改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	一人ひとりが自己評価に取り組むことで毎日のサービスを振り返る機会となり、さらに、話し合いを集約することで理解を深め、サービスの質の向上に役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、およそ2ヶ月に1回開催している。事業所の運営状況や取り組みについて報告し、質問や意見をもらい、サービスの質の向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へ定期的に報告を行っていることや、来訪時にコミュニケーションをとるように心がけることで、家族の思いを聞きとる努力をしている。利用開始時に苦情の窓口について説明している。さらに、玄関に苦情入れ箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩、買い物等で日常的に地元住民と交流がある。事業所は町内会に加入し、町内会行事に参加しており、さらには事業所の行事にも招いたりしている。また、小学校の運動会、町の農業祭、文化祭等にも出かけるなど、地域との交流を積極的に行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らすことを大切に、毎日を安心して笑顔で暮らせるよう支援するという理念を掲げ、日々実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員に浸透しており、日々のサービスの中で活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩、買い物で近隣との交流が日常的にある。また、町内会に加入し、新年会・花見等の行事に参加しているほか、夏祭り・敬老会等の事業所の行事に町内の人々を招いている。さらに、小学校の運動会、町の農業祭、文化祭等の地域活動にも積極的に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一人ひとりが自己評価に取り組み、職員同士で話し合いをもって集約することで、サービスの質の向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。事業所の運営状況を報告している。質問・要望を受けるとともに、意見交換を行っている。事業所に対する理解が徐々に深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や保護係と、常に連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告については、毎月発行する「まごころ通信」や利用者個別の便り、さらには、行事の写真等で暮らしの様子を知らせている。金銭管理については、家族の来所時に確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時にはできるだけコミュニケーションをとるように心がけ、意見・要望を汲み取るように努力している。苦情については利用開始時に説明し、玄関に苦情入れ箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少ないがある場合は、十分な引継ぎ期間を設けて、利用者へのダメージを最小限に防いでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は外部の研修に積極的に参加している。会議の中で研修報告を行い、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加した際は、積極的に他事業所の職員と交流するようにし、ケアを向上させるための参考としている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の開始に当たっては、家族と共に利用者が見学に来るなどして、徐々に慣れるようにしてからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なことを把握し、活躍の場面を設けたり、本人から学ぶなどして、お互いに助け合う家族のような関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活での利用者や利用者同士の会話を聞くなどして、希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の意見・要望を来所のおりに聞きとり、職員会議の中で話し合い、その結果をまとめることにより作成している。それを家族に送付し、押印の上返送してもらっている。	○	介護計画については理解が難しい場合もあることから、来所のおりに面談し、説明して納得を得ることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、3ヶ月ごとに見直している。状況が変化した場合は、その都度臨機応変に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の介助、なじみの美容院への送迎などのほか、利用者の要望に沿って、出来る限り柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び、家族の望む医療機関で受診できるようにしている。必要に応じて、かかりつけの医療機関への受け入れ体制が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化した場合に事業所が出来ることを説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や食事、服薬の支援をさりげなく行っており、誇りを守る配慮をしている。記録類の個人情報は、人目に触れる所には置かないなど、保管にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、一人ひとりの希望に沿って、その人らしく過ごすことができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で収穫された野菜を使って、利用者個々の好みや力に合わせて、職員と一緒に食事の準備から後片付けまで行っている。職員と利用者が、同じテーブルで和やかに食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴と、希望や必要に応じてシャワー浴や足浴等で清潔を保っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意なことや楽しみを把握して、本人が役割を持ったり、楽しみがかなうよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、買い物、ドライブ、外食など、多彩なメニューで外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、職員の見守りや配慮により、日中鍵を掛けているところはなく、開放感が感じられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、消火器訓練を年2回行っている。スプリンクラーを設置し、緊急連絡網、マニュアルも整えている。近隣の住民への協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分摂取量を記録し、把握するようにしている。栄養のバランスについては、市の栄養士に指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はゆとりがあり、清潔を保っている。壁には行事の写真や、利用者の作品を掲示し、家庭的な雰囲気を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでおり、家族の写真や壁の飾り付けなど好みを活かして、その人らしい居室となっている。		

※  は、重点項目。